



平成29年4月28日
海上保安庁

西之島の噴火について ～溶岩流が2ヶ所で海に到達～

4月27日午後1時58分から午後2時35分の間、当庁羽田航空基地所属航空機MA725により、西之島の火山活動の観測を実施しました。その結果、西之島の西岸及び南西岸で溶岩流が海まで達していることを確認しました。

【調査結果】

- ・噴火：火口内に新たな火砕丘（新火砕丘）が形成され、断続的にストロンボリ式噴火¹が発生。¹ストロンボリ式噴火：非爆発的な噴火
- ・噴煙：新火砕丘の中央から北方向、灰色、火口縁から高さ約150mまで放出。
- ・噴石：北側に放出し、山の北麓まで到達。
- ・溶岩：山の北側山腹と麓から流出し、島の西岸及び南西岸で海に到達（北側は観測できず）。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「深部のマグマ溜まりからの火道²が確立されていると考えられる。2013年から2015年までの活動の様な主に溶岩流出だけではなく、今後はやや激しい噴火が発生する可能性があり、火口内での噴火活動に注視する必要がある。」とのコメントが得られました。²火道：マグマの通り道

引き続き、航行警報により付近航行船舶に注意を呼びかけています。



西之島の噴火の様子（4月27日撮影）



火口内に新たに形成された火砕丘（4月27日撮影）



西之島の熱画像（4月27日撮影）